

理学部  
◆ 宮 村 博 厚 修 開 始

# 理学部教育支援情報システムの運用開始

現在提供している情報は、(1)授業科目の履修方法とシラバス、(2)学科・研究室紹介、(3)講義時間・学年歴、(4)学部長・チューター等、(5)学生名簿、(6)全学の授業内容、です。

## 二 概 要

本稿では、このシステムの概要と使い方について、簡単に説明します。

このシステムは、WWW（ワールドワイドウェブ）サーバーとそのひとつであるクライアントであるmosaicというプログラムを利用してつくられています。このプログラムでは、使用者はキーワードや選択ボタンを画面上で指定していくことにより、その先の情報を到達できるようになります。文字情報ばかりではなく、画像情報や音声情報なども扱うことができます。

理学部設置（学生係事務室前とE102講義室前）の専用検索端末を利用する場合は、写真的初期画面からスタートします。利用者が操作するのは、主としてトラックボールとそれについているクリックボタンだけで、文字検索等の時に補足的にキーボードで文字入力を行います。例えば、履修について見たい場合は画面上の授業科目の履修方法とシラバス（アンダーラインがついていることに注意）のところにトラックボールを転がしてカーソルを合わせ、クリックボタンを押すことで各学科の

## 一はじめに

理学部では本年四月より教育支援情報システムの運用を始めました。このシステムは、カリキュラム、シラバス（授業科目内容）、履修や修学相談の窓口、研究室や職員等に関する情報を提供するデータベースシステムです。

本システムは、理学部に設置された六台の専用検索端末と、総合科学部に設置予定の二台の端末から簡単に利用することができます。また、学内情報ネットワーク、Hi-NETを介して他部局から利用することも可能です。

このシステムは、シラバスなど、データベース化された教育支援情報を理学部の学生や職員に効率よく提供することを目的として構築しましたが、理学部の教育・研究内容を全学に公開することも目的としています。

## 三 使 い 方

てあります。(4)では学科長と学年別の

チユータ、就職相談担当教官の氏名と連絡先が提供されます。(5)では学科別

に入学年度ごとの学生名簿が提供され

(6)は他学部開講の科目名とシラバ

スを検索するもので、総合情報処理センターが試行している全学のシラバ

◀システムの端末機器



履修表のページに移ります。以下同様に、学科→科目区分→科目と選んでゆけば、最後にシラバスに到達し、講義内容を見ることができます。

専用端末以外の端末から利用する場合は、端末がmosaicブラウザまたはそれに相当する表示機能を備えていることが必要です。

それらの端末からWWWサーバーに接続してmosaicを起動し、そこから理学部のサーバー（URLは`http://www.scihiroshima-u.ac.jp`）に入つて理学部教育支援情報システムを選択すれば、本システムが利用できます。

## 四 おわりに

本システムについては、今後検討していくべき問題点がいくつか残されていました。

**(注)** 本システムは、平成六年度大学改革推進費により整備した。

構築グループは、日置慎治氏（理学部助手）、山崎英治氏（理学部学生係長）、赤尾宗典氏（理学研究科）と筆者らである。

また、総合情報処理センターの相原助教授、西村助手のご協力をいただいた。

いままで、内容をさらに充実させるとともに、より使いやすいものへと改良していくことが必要です。学生生活に役に立つ厚生関係や就職関係の情報、諸手続きの案内等を追加していくことも検討中です。情報を提供する範囲についても検討すべきかもしれません。当システムはWWWを活用しているので、何も制限しなければ、国内はもちろんinternetで結合されたすべての国からアクセスできます（ただし、情報がほとんど日本語で書かれているので日本語環境が必要ですが）。

現在、学内に限定し情報を提供していますが、これを全国に拡大することを考えられます。これは、我々の教育・研究の内容を全国に公開していくといふ積極的な活動になりますが、情報によつては、プライバシーや著作権の問題を含む可能性があり、構成員による合意が必要となるでしょう。

（まつうら・ひろあつ）  
みやむら・おさむ

## 医・歯六年一貫教育の中味

# 医・歯六年一貫教育事始め

医学部医学科・安田峯生

霞地区教育研究  
究検討専門委員

会が課せられた大きな課題は、教養的教育と専門教育をいかにバランスよく統合するかであった。

この改革は、平成四年三月に出された「教育研究整備基本計画検討特別委員会答申」と、これを受けて同年五月評議会で承認された「大学設置基準等の改正に伴う広島大学の教育研究の整備と改善について〔大綱〕」の「学部の教育の整備について」に示された方向に基づいて行われた。

平成四年七月には医学部、歯学部、原爆放射能医学研究所（以下原医研）の教官から成る霞地区教育研究検討専門委員会が発足し、私がその委員長に選ばれたのだが、ここではその後の改革の実体と、現在の問題点、将来の展望を思いつくままに綴つてみた。

なお、ここに記すのは、あくまでも私個人の見方であることをお断りりしておこう。

ちなみに医学科では、旧カリキュラムでは医学進学課程で七十二単位以上を履修することになっていたが、一貫

教育となつても、教養的教育科目は十六単位以上を履修することが義務づけられている。なお、専門的教育は百四十四単位以上が要求される。

新カリキュラムで特筆すべきことは、医学部・歯学部開設の教養的教育科目（専門関連科目）ができたこと、その多くに原医研の教官が参加していることである。